

第 17 期 事業報告

(2021 年 11 月 1 日～2022 年 10 月 31 日)

1. 会員加入状況報告

2022 年 12 月 6 日現在の会員加入状況は表 1 の通りである。

表 1：会員加盟状況

区分	第 16 期会員数	第 17 期会員数
正会員（個人）	18	13
正会員（団体）	5	5
賛助会員(個人)	1	1
賛助会員(団体)	7	7

- 正会員(個人)
 - ・退会 5 名があった。

2. 事業報告（概要）

1 事業収益の概要

第 17 期の事業収益は、収入 68,914 千円、支出 66,849 千円、収支 2,065 千円となり、いずれの金額も期初の事業計画を下回ったものの、収支均衡を達成することができた。

これは、今期事業計画のうち収入については、一般競争入札を予定していた案件を落札できなかったものの収入は次期 18 期に繰越となったこと、支出については、最低賃金引き上げなどに伴い人件費が上昇したことなどによるものである。

表 2：事業収支（千円）

区分	第 16 期実績	第 17 期事業計画	第 17 期決算	計画との差異
収入	71,751	71,091	68,914	-2,177
支出	69,719	66,801	66,849	48
収支	2,032	4,290	2,065	-2,225

基本方針

■ 開発体制の維持強化

- 内製率の向上
新規プロダクトとして音声合成システム, 顔認証システムをリリースする中で, 内製率は目標とする 50%を維持することができた.
- 維持管理事業
既存の事業である, CHiBi-CHiLO の維持管理については, 内部の要因を中心に実施することができた.

■ 事業活動

研究開発：今期は, 競争的資金の獲得はできなかった.

製品開発：新プロダクトとして, 音声合成システムおよび顔認証システムをオープンソースソフトウェアとして提供することができた.

受託業務：受託業務としては, CHiBi-CHiLO を国立情報学研究所, 大阪教育大学, 大阪大学, 熊本大学に導入することができた.

3. 事業報告

1. インターネットを活用した教育機関の教育連携を実現する支援

本事業では, 主として教育機関が運用する eラーニングシステムの運用保守の受託業務を実施した. 主な実績は以下の通りである.

■ 帝塚山大学

事業規模は例年程度を維持することができた.

■ 大阪教育大学

大阪教育大学では, 2022 年 5 月に教員研修配信システム一式の一般競争入札が公示され, 8 月に落札することができた. 納期は 2022 年 12 月末となっているため, 実績は第18期となっている. また, オープンエデュケーション事業にたいし, LMS(Moodle)および CHiBi-CHiLO システムを提供し, その運用保守を行った.

■ 国立情報学研究所

- 国立情報学研究所学認 LMS のコンテンツ基盤として、CHiBi-CHiLO を提供した。
- 前期に引き続き、光・量子飛躍フラッグシッププログラムについて、東京大学、九州大学、慶応大学の学生に対するオンライン講義配信の支援業務を実施した。

■ その他の教育機関

熊本大学、大阪大学などで CHiBi-CHiLO の導入支援を実施した。

2. e ラーニングのためのコンテンツ・ソフトウェアの制作と流通を促進する事業

本事業では、主として教育機関が提供するオンライン教育のコンテンツ制作の受託業務を実施した。今期は、新たなプロダクトとして、CHiBi-CHiLO がプロダクトリリースしたため、主に、ビデオ教材を CHiBi-CHiLO として制作する支援を行った。

■ 大阪教育大学へのサービス

大阪教育大学が推進する、オープンエデュケーションのビデオ教材を CHiBi-CHiLO として提供した。

3. e ラーニングを活用した教育手法の調査研究事業

本事業では、主としてオンライン教育に関するシステムの研究開発を他機関から受注することで、実施した。主な実績は以下の通りである。

■ CHiBi-CHiLO

国立情報学研究所、大阪大学、熊本大学からの開発業務委託として、CHiBi-CHiLO に、ビデオ視聴解析機能追加、一括登録機能追加、LTI1.3 対応となった。これにより CHiBi-CHiLO は、LMS の外部ツールとして、一程度の機能を有したプロダクトとなったと考えられる。

■ CHiLO-Speech

国立情報学研究所の委託により、CHiBi-CHiLO と連携し、ナレーション原稿付きのパワーポイントから音声合成ビデオ教材を作成する Web アプリケーション、「音声合成ビデオ教材作成システム」を開発し、CHiLO-Speech として、オープンソースソフトウェアで公開した。

■ 顔認証システム

Azure Face API を利用した顔認証システムのプロトタイプを自己資金により開発した。本システムについては、準備が整い次第、オープンソースソフトウェアで公開予定である。

4. 連携，助言または援助の活動事業

■ 大阪教育大学

大阪教育大学との産学協同事業推進のため，クロスアポイント契約により，2022年4月から，附置研究所主任研究員1名を特任教授として派遣した．大阪教育大学のエフォート率は2割とし，任期は1年間とした．

■ シンポジウム

新型コロナウイルスパンデミックの拡大を考慮し，シンポジウム開催を見送った．

■ 学会事務局

第17期については，大学eラーニング協議会(UeLA)の事務局業務に加え，同協議会のオンラインシンポジウムのサポート，日本教育工学会のオンライン学会のサポートを実施した．

■ 論文等の投稿・発表

第17期は，以下の論文誌等への投稿と発表を行った．

- ・ 堀真寿美．情報処理学会論文誌デジタルプラクティス特集号「情報と教育」編集委員長，2022年8月～2023年4月
- ・ 堀真寿美，et al．ぺた語義：オープンバッジと学びの未来．情報処理，2022，63.10: 572-576.
- ・ 堀真寿美．「オープンバッジと学びの未来」CAUA Forum 2022 教育DXの実現に向けて 2022年8月5日

以上